油だき温水ボイラ

取扱説明書

CBL-800S3

このたびは本品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
この取扱説明書を読んで正しいご使用方法でいつまでもご愛用くださいますようお願い申しあげます。

1．まちがった使用をされますと、機能を十分に発揮しなかったり、故障や思わぬ事故・危険を招くことがあります。
2．保証書は必ず販売店名、型式、製造番号、設置日などの記入を確かめて、この取扱説明書と共に大切に保管してください。

長府工産株式会社

目　　次

特に注意していただきたいこと…… 1
各部の名称…… 4
使用前の準備…… 6
　燃　　料…… 6
　給　　油…… 7
　運転開始前の準備と確認…… 8
使 用 方 法…… 9
　運 転 方 法…… 9
　温度調節の方法…… 9
　運 転 停 止…… 9
　凍 結 予 防……10
　使用上の注意……11
　長期間使用しないとき……11
安 全 装 置……11
日常の点検、手入れ……12
定 期 点 検……15
故障・異常の見分け方と処置方法……16
部品交換のしかた……17
仕　　様……18
アフターサービス……19
据　付　け……20

特に注意していただきたいこと

●**ここに示した事項は　⚠警告　⚠注意　に区分しています。**

⚠警告　：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意　：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●「 ⚠ 注意」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

●マークについては次のような意味があります。

……「禁止していること」を表すマークです。

……「必ず行なうこと」を表すマークです。

……「注意すべきこと」を表すマークです。

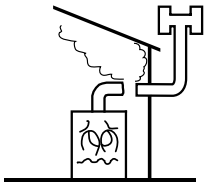
⚠警告（WARNING）

ガソリン厳禁

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。

はずれ危険（屋内用機器の場合）

煙突がはずれたままで使用しないでください。
はずれていると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



煙突の閉そく危険

煙突がつまったり、ふさがれたままで使用しないでください。
閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

⚠注意（CAUTION）

高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部、煙突、に手などふれないでください。
やけどのおそれがあります。

高 温 注 意

入浴するときや、シャワーを使用する場合、手で湯の温度を確かめてから使用してください。やけどのおそれがあります。

可燃物禁止

機器の上や周囲に燃えやすいものを置かないでください。
火災のおそれがあります。
特に、機器周辺にガソリン・ベンジン・スプレー缶などの引火性危険物は置かないでください。

囲 い 禁 止

機器を波板などで囲わないでください。
不完全燃焼や火災のおそれがあります。

分解修理・改造の禁止

故障や破損したときは、使用しないでください。
不完全な修理や改造は危険です。

異常時使用禁止

万一異常を感じたときは使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。

電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、物を乗せたりしないでください。
また、電源プラグを抜くときはコードを持って引き抜かないでください。
火災や感電の原因になります。

⚠注意（CAUTION）

電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。火災の原因になります。
ぬれた手でプラグの抜き差しをしないでください。感電の原因になります。

長期間使用しないときは電源プラグを抜く

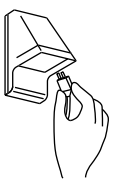
長期間使用しないときは電源プラグを抜いてください。
火災や予想しない事故の原因になります。

電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこりや金属物を除去してください。
ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。

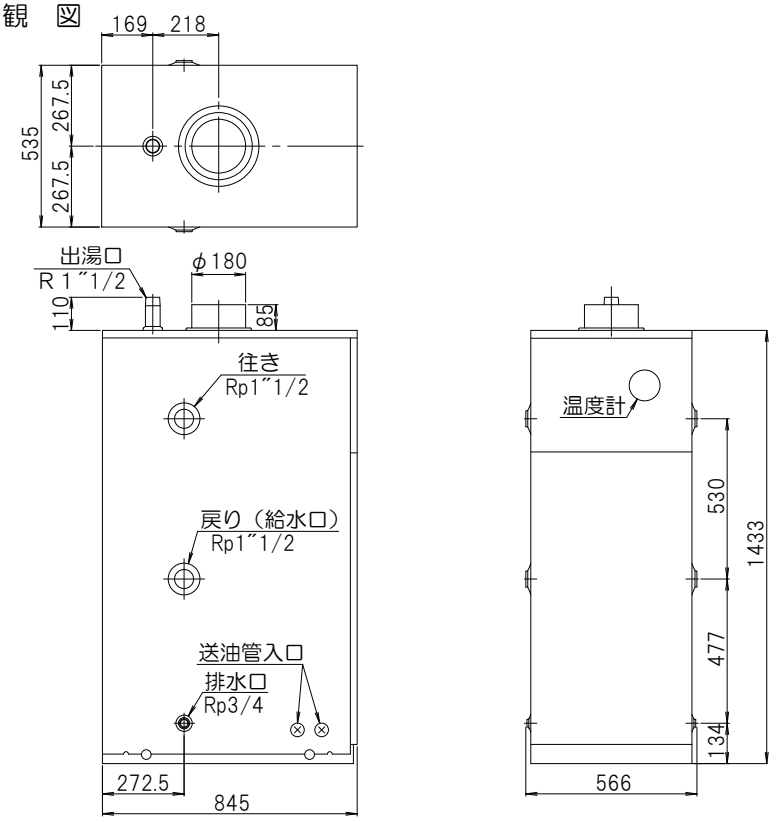
屋外では防水コンセントを使用する

屋外で使用するコンセントは必ず防水コンセントを使用してください。漏電などにより、機器が故障するおそれがあります。

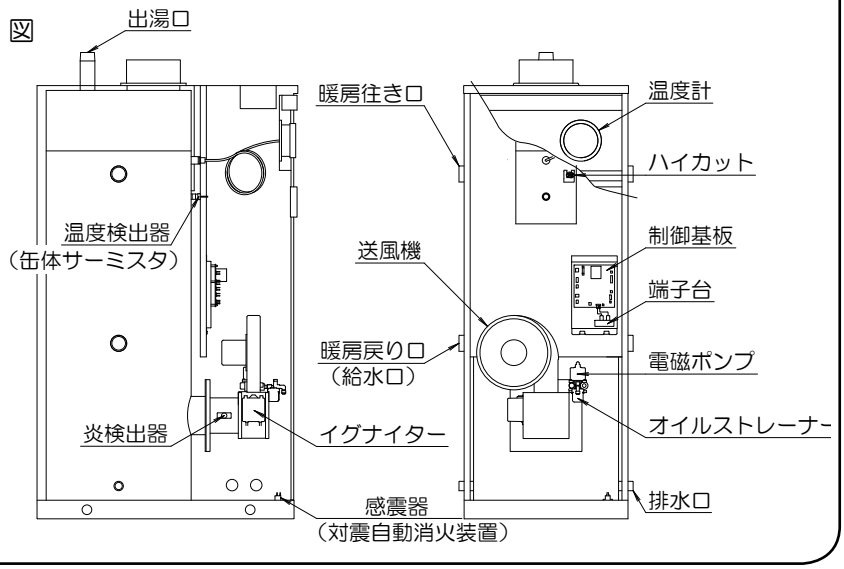


各部の名称

● 外　観　図

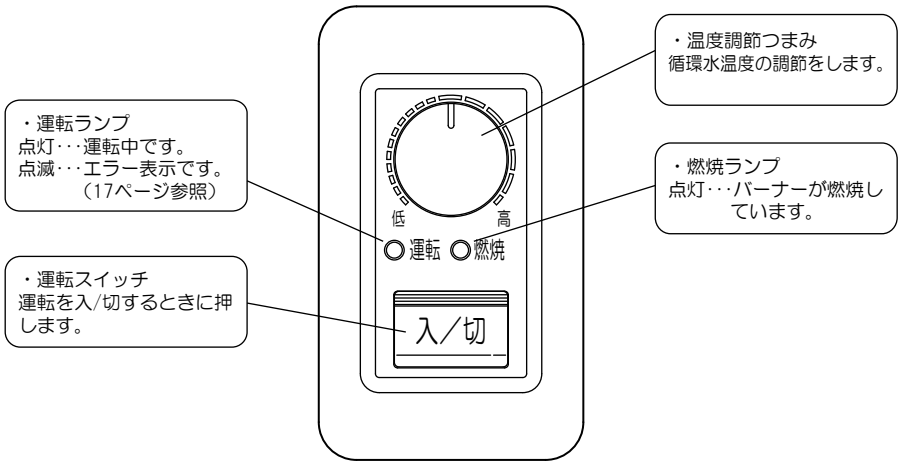


● 構　造　図



《 操　作　部 》

● メインリモコン　M－０２２ＳＨ



使用前の準備

■ 燃　　料

燃料は必ず灯油（ＪＩＳ１号）をお使いください。

⚠警告

ガソリン厳禁

ガソリンなどの揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災のおそれがあります。

⚠注意

変質灯油や不純灯油は絶対に使用しないでください。異常燃焼や故障の原因になります。

●変質灯油とは

・古い灯油

・日光の当る場所、高温の場所で長時間保管した灯油
（特に乳白色のポリ容器や容器のふたをあけて保管したものは変質しやすい）
極度に変質したものは黄色味がかったり、酸っぱい臭いがします。

●不純灯油とは

・水や灯油以外の油が混入したもの（天ぷら油、機械油）　→ 故障の原因になります。

・ガソリン、シンナーが混入したもの　→ 火災の原因になります。

・助燃剤、水抜き剤などの添加物が混入したもの　→ 故障の原因になります。

・ドラム缶のさびなどが混入したもの　→ 燃料フィルターやくみ上げポンプのフィルターがつまります。

注意

変質灯油や不純灯油を使用すると、ノズルづまりによる不着火や燃焼時に煙突から黒煙や白煙が出るなど、異常燃焼の原因になります。

■ 給　　油

●給油の際の注意

給油の際に、水・ゴミなどを入れないよう特に注意してください。水・ゴミなどは燃焼不良や、電磁ポンプの寿命低下などの原因となります。

（1）油タンクの給油口ふたをはずし、灯油を市販の給油ポンプで油量計を見ながら給油してください。

（2）給油の際は、給油口のフィルターを取去らないでください。

（3）給油の際にこぼれた灯油はよくふきとってください。

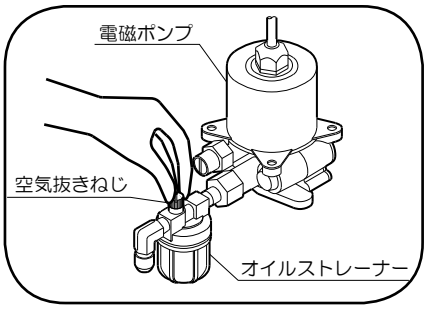
（4）給油口ふたは、必ず元通りに閉めてください。

●燃料切れの注意

油タンクの油量を時々点検し、燃料切れになる前に必ず給油してください。据付けて初めて使用するときや、油タンクを空にし給油後初めて使用するときは、送油経路内に空気が入って点火できないことがあります。この場合は、次の要領で送油経路内の空気を抜いてください。

●送油経路の空気抜き方法

据付けて初めて使用するときは、送油経路内の空気抜きを行なってください。油タンクの送油バルブを開き、オイルストレーナーの空気抜きねじをゆるめて、灯油が連続して出てきたら、ねじを締めてください。このときこぼれた灯油はただちにふき取ってください。



・空気抜きは十分に行なってください。空気抜きが不十分ですと、点火しなかったり、燃焼中に消火することがあります。

・もし点火しなかった場合や運転ランプが点滅（２回）する場合は、運転スイッチを入れなおしてください。

・油タンク（送油経路）は空にしないように注意してください。

■ 運転開始前の準備と確認

●機器への給水及び水漏れの確認

・運転スイッチを入れる前に、給水元栓が開いていることを確認し、給湯栓を開いて水が出ることを確かめてください。水が出ないときは、凍結していないか、排水栓が開いていないかなどを調べ、給湯栓から水が出るように処置してください。
・配管経路及び接続部などに水漏れはないか確認してください。
・暖房用または融雪用の熱源機として使用する場合、循環水が入っているか確認してください。給水方法は配管工事のやり方によって異なりますので、工事店の指導を受けてください。循環水には、適切な濃度にした不凍液を使用してください。

●送油経路からの油漏れの確認

油タンクに灯油が十分入っており、送油経路に油漏れがないか確認してください。

●電気回路の確認

電源プラグがコンセントに確実に差し込まれていることを確認してください。

●煙突の接続の確認

煙突は確実に接続してあり、漏れや、はずれがないか確認してください。

●電源周波数の確認

・機器は 50Hz 用と 60Hz 用の区別をして出荷しております。現地の電源周波数と合っているか確認してください。
・電源周波数について詳しいことは、販売店または電力会社にお問合せください。

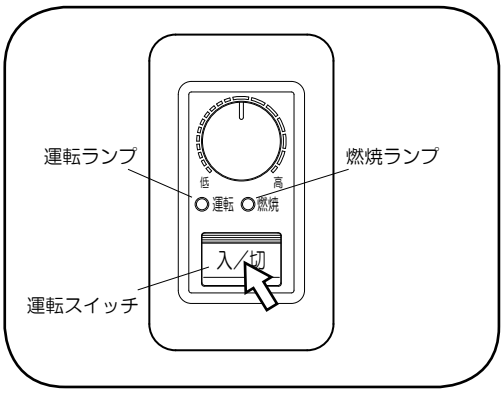
●機器周辺の危険物などに関する注意

機器の周辺にガソリン、シンナーなどの危険物や、紙などの可燃物が置かれていないことを確認してください。

使 用 方 法

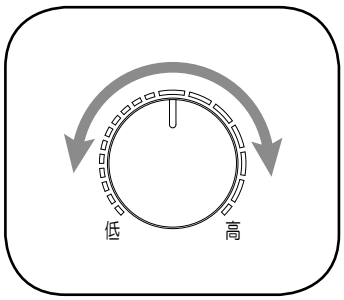
運 転 方 法

メインリモコンの運転スイッチを「入」にしてください。運転ランプが点灯し、バーナー燃焼中は燃焼ランプが点灯します。



温度調節の方法

温度調節つまみで給湯温度を設定します。



給湯量と給湯温度のめやす

季 節	給 水 温 度	給 湯 温 度	給 湯 量
夏	25℃	50℃（25℃上昇）	53 L/min
春・秋	15℃	50℃（35℃上昇）	38 L/min
冬	5℃	50℃（45℃上昇）	29 L/min

（表は計算上の値です）

運 転 停 止

メインリモコンの運転スイッチを押してください。運転ランプが消灯し、運転を停止します。

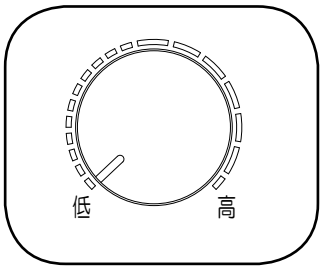
■ 凍 結 予 防

凍結のおそれがあるときは、下記のいずれかの方法で凍結予防を行なってください。

【 給湯用として使用の場合 】

●凍結予防運転による方法

温度調節つまみを「低」の位置にして運転スイッチを入れてください。自動的にバーナーが燃焼し、缶体内の水を保温します。

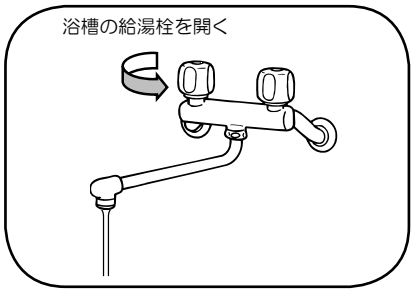


お願い

- **電源プラグは絶対に抜かないようにしてください。**
- **機器外の配管の凍結予防はできませんので、凍結しないよう断熱材で十分保温してください。**
- **配管内の水が凍結するおそれのある場合は、「水抜きによる方法」を行なってください。**

●通水による方法（断水時には効果がありません）

運転を停止してください。給湯栓を開いて、浴槽に少量の水（1 分間に 400cc 程度、ただし特に寒い日には多めに）を流し放しにしておいてください。たまった水は雑用水としてご利用ください。



●水抜きによる方法

（1）運転を停止して電源プラグをコンセントから抜いてください。
（2）送油バルブを閉めてください。
（3）給水元栓を閉めてください。
（4）すべての給湯栓、排水栓を開けてください。

【 暖房用または融雪用熱源機として使用の場合 】

凍結予防として循環水には、適切な濃度にした不凍液を使用してください。なお、温水暖房システムには暖房用不凍液を、路面融雪用には融雪用不凍液をそれぞれ使用してください。

■ 使用上の注意

・煙突は高温です。やけどに注意してください。
・缶体内や配管内にたまっていた水は飲用または調理に用いないでください。使用水の水質、配管材料の劣化、水あかなどにより水質が変わることがあります。
・水道法に定められた飲料水の水質基準に適合しない井戸水または温泉水で使用しないでください。水質によっては機器を腐食させる原因になります。
・機器点火時にテレビ・ラジオなどにノイズ（雑音）が入ることがありますが、点火放電によるもので異常ではありません。テレビ・ラジオなどは機器から３m 以上離し、コンセントを別回路にすると、ノイズ（雑音）を減少させることができます。

■ 長期間使用しないとき

長期間運転を休止する場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、熱交換器及び配管内の水を完全に抜いてください。
また、油タンクの送油バルブを閉めてください。

安 全 装 置

安全装置が作動した場合、原因を取り除いたあと、運転スイッチを入れなおしてください。

●対震自動消火装置（感震器）

運転中に機器が強い振動や衝撃を受けたとき、火災などの危険を防ぐために運転を停止します。

●燃焼制御装置（炎検出器）

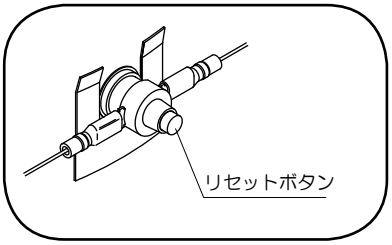
燃料切れなどの点火不良や、燃焼中に消火したとき、炎検出器が異常を感知して運転を停止します。

●停電安全装置

停電になると自動的に消火します。再通電した後、運転スイッチを入れなおしてください。

●過熱防止装置（ハイカット）

温度検出器の故障で熱交換器の温度が異常に上昇する前に、このスイッチが働き機器はすべての動作を停止します。異常を取り除きハイカットのリセットボタンを押した後、運転スイッチを入れなおしてください。



日常の点検、手入れ

■ 点検、手入れのときの注意

●点検、手入れを行なう前に必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
●点検、手入れの際、次のことは絶対に行なわないでください。
・対震自動消火装置（感震器）の取りはずし及び分解
・温度センサーの取りはずし
・電磁ポンプの圧力調節

■ 点検、手入れの必要項目、時期、手法

●周囲の可燃物（日常、常に点検）

燃えやすいものが落ちたり、ふれたりするおそれがないことを確認してください。火災の危険がありますので、周りに可燃物を置かないでください。

●ほ　こ　り（日常、常に点検）

機器の内部にたまったほこりや汚れにより、思わぬ事故になる場合があります。掃除をしてください。

●油漏れ、油のたまり、油のにじみ（日常、常に点検）

日常、油漏れや油のたまり、油のにじみがあるかどうかを調べるよう習慣づけ、給油の時にこぼれた灯油はよくふき取ってください。万一油漏れによって油のたまり、油のにじみが生じているときは、運転を停止してお買い上げの販売店にご連絡ください。

●送油管の点検（日常、常に点検）

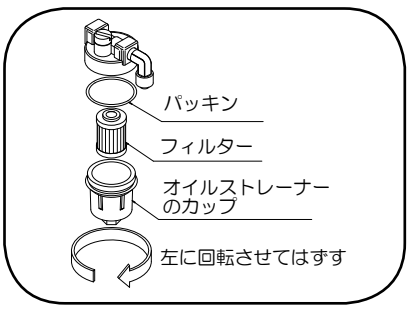
送油管から油漏れがないか点検し、油漏れなどがあれば運転を停止してお買い上げの販売店にご連絡ください。

●油タンク内の水（給油時に点検）

油タンクに水やゴミがたまっているようであれば取り除いてください。

●オイルストレーナー（3 ヵ月に 1 回）

オイルストレーナーに水、ゴミなどがたまると電磁ポンプから振動音が出たり、点火不良や燃焼不良をおこすことがあります。3 ヵ月に 1 回位、オイルストレーナーの掃除をしてください。



●煙　　突（1 年に 1 回）

煙突がつまると燃焼が悪くなります。年に 1 回以上は、すすなどのつまりがないか点検してください。煙突の周辺の樹木など、可燃物には気をつけてください。

●水　漏　れ（日常、常に点検）

熱交換器・配管などから水漏れがないことを確認してください。水漏れがあればお買い上げの販売店にご連絡ください。

●逃　し　弁（１ヵ月に１回）

逃し弁は配管の錆や、水あかなどによって、弁が固着することがあります。１ヵ月に１回の割合で逃し弁のレバーを数回引き上げて、弁が固着していないかを確認してください。

●循環水の点検（シーズン初め、暖房または融雪使用の場合）

・循環水が不足していないかシーズンの初めに点検をし、不足している場合は給水してください。また、循環経路のフィルタを掃除してください。
・循環水として使用している不凍液は２～３年程度で防錆・防食効果がなくなりますので、専門業者に不凍液の濃度・ペーハー（PH）の点検を依頼してください。不凍液を交換する場合は、配管・熱交換器内部の洗浄を行なってください。
・循環ポンプが正常に運転するか確認し、異常があれば循環ポンプの取扱説明書にしたがって確認してください。

●接　　地（日常、常に点検）

機器にアース線が確実に接続されているか確認してください。

定 期 点 検

●定期点検に関する注意

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。1 年に 1 回程度、お買い上げ店、または修理資格者〔(財) 日本石油燃焼機器保守協会 (TEL03-3499-2928) で行なう技術管理講習会修了者 (石油機器技術管理士) など〕のいる販売店などに点検依頼されることをおすすめします。

故障・異常の見分け方と処置方法

故障や異常を感じたときは使用をやめて、修理を依頼される前に次表により原因を調べて処置をしてください。原因のわからないときは、そのままにしてお買い上げの販売店または弊社までご連絡ください。

故障の状況	原　　因	処　置　方　法
電源が入っていない。	停電している。	再通電するのをお待ちください。
	電源プラグが抜けている。	電源プラグを差してください。
	制御基板のヒューズが溶断している。	お買い上げの販売店または弊社までご連絡ください。
運転スイッチを入れても作動しない。	制御基板の故障。	
いったん正常に運転するが、約 30 秒後に停止する。	油切れまたは送油バルブが閉じている。	給油してください。 送油バルブを開いてください。
	送油経路の空気抜きが不十分。	空気抜きをしてください。
	オイルストレーナーのゴミづまり。	ゴミを取り除いてください。
	油タンクに水がたまっている。	タンクの水を抜いてください。
途中で温水温度が低下する。	油切れ。	給油してください。
煙突からすすが出る。		お買い上げの販売店または弊社までご連絡ください。
燃焼ガスの臭いがきつい。		
油漏れしている。		
水漏れしている。		
異常な燃焼音がする。		
エラーが出る。		点滅表示による処置方法（次頁）を参照してください。

■点滅表示による処置方法

リモコンの運転ランプの点滅回数により、故障原因を判断することができます。お買い上げの販売店または弊社まで連絡していただく場合は点滅回数もお知らせください。

点滅回数	故　障　内　容	処　置　方　法
1	減油感知器（別売）の作動	油タンクに給油してください。
2	着火不良、不着火	油切れなどないか確認してください。
3	温度検出器（缶体サーミスタ）の断線、または短絡	お買い上げの販売店または弊社までご連絡ください。
7	対震自動消火装置（感震器）の作動	機器に異常がなければ運転スイッチを入れなおしてください。
8	ハイカットの作動	機器に異常がなければ、ハイカットのリセットボタンを押して、運転スイッチを入れなおしてください。
１０	疑似火炎検知	お買い上げの販売店または弊社までご連絡ください。
１１	制御基板異常 （イグニッショントライアル回路故障）	

・点滅回数の見方（例：２回点滅の場合）

■次のような場合は故障ではありません

給湯栓を開いてもすぐお湯が出ない	機器から給湯栓まで距離がありますので、お湯が出てくるまで少し時間がかかります。
湯が白く濁って見える	水中に溶けていた空気が細かい泡となって白く見えるためで問題はありません。
出湯量を多くすると給湯温度が低くなる	給湯能力以上のお湯が出ていますので、給湯栓を絞ってください。

部品交換のしかた

交換品が必要なときは、お買い上げになった販売店でお求めください。

■修理は（財）日本石油燃焼機器保守協会で行なう技術管理講習会修了者［石油機器技術管理士］の修理をお受けください。

仕　　様

型式		CBL-800S3
型式の呼び		CBL-800
種類	燃焼方式	圧力噴霧式
	給排気方式	屋内外用半密閉式強制通気形
	給水方式	水道直結式、シスターン式
	加熱方式	1缶1水路式
	用途別方式	給湯用、暖房用
点火方式		高圧放電式
使用燃料		灯油（ＪＩＳ　１号灯油）
燃料消費量		115.2ｋW（11.2Ｌ/h）
暖房効率		80.0%
暖房出力		92.9ｋW（80,000kcal/h）
連続給湯効率		80.0%
連続給湯出力		92.9ｋW（80,000kcal/h）
間欠給湯出力		9,934ｋJ（2,373kcal）
熱交換器容量		100Ｌ
使用圧力		0.1ＭPa
伝熱面積		2.95㎡
外形寸法		高さ1433㎜×幅535㎜×奥行845㎜
質量		130ｋg
電源電圧及び周波数		ＡＣ100Ｖ　50/60Hz
定格消費電力		点火時137/166W　燃焼時120/149W
待機時消費電力		運転スイッチ「切」時　1.8W
煙突の呼び径		φ180㎜
騒音レベル		53ｄＢ（Ａ）
ノズル	噴霧量	3.0ＧＰＨ
	スプレーパターン	Ａ
	噴霧角度	60度
電流ヒューズ		10Ａ
安全装置		対震自動消火装置（感震器）、燃焼制御装置（炎検出器）、停電安全装置、過熱防止装置（ハイカット）
附属品		シームレスホース(1)、アース線(1)、メインリモコン(1)、取扱説明書(1)、工事説明書(1)、保証書(1)、プラグR 1'1/2(2)、プラグR3/4(1)

アフターサービス

●修理について

ご使用中に異常が生じ、16 ～ 17 ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」に従って処置をしても、なおらない場合には、お買い上げの販売店、または弊社までご連絡ください。なお、ご連絡されるときは、機器の型式名及びお買い上げ時期をお知らせください。

・ご転居の場合には事前にお買い上げの販売店にご相談ください。
・ご贈答品などで保証書に記入してあるお買い上げの販売店に修理がご依頼できない場合には、弊社までご相談ください。
・保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって性能が維持できる場合は有料修理いたします。

●保証書について

保証書は、記載内容をご確認のうえ大切に保管してください。
保証書に設置日、販売店名など所定事項の記入がないと有効とはなりません。もし記入がないときは、すぐにお買い上げの販売店にお申し出ください。
万一故障した場合には、保証書記載内容により、保証期間内は無料修理いたします。
この機器の保証期間は設置日から 2 年です。その他の詳細は保証書をご覧ください。
この取扱説明書やラベル類による指示、禁止、注意事項に反したご使用状態で万一事故が発生した場合、弊社は責任を負いかねます。

●補修部品供給期間について

補修部品の供給期間は、製品の製造年より 13 年間です。

据　付　け

■ 据付け場所の選定及び標準据付け例

据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。工事説明書の「安全のために必ずお守りください」をお読みになり販売店または据付業者とよくご相談してください。また、「標準据付け例」については、工事説明書をお読みください。

■ 騒音防止について

設置場所の選び方次第で騒音は大きく変わります。騒音公害とならないよう十分配慮して設置場所を選択してください。

■ 据付け工事後の確認

据付けが終わりましたら、もう一度、工事説明書の「安全のために必ずお守りください」をお読みになり、工事説明書に記載されているとおり据付けられているかどうかを確認してください。

■ 試　運　転

試運転は必ず販売店または据付業者とご一緒に行なってください。

1．運 転 準 備

（1）給油及び送油経路の空気抜きと油漏れの確認
- 油タンクへの給油は油量計を見ながら行なってください。
- 送油経路内の空気抜きを行なってください。（詳しくは 7 ページをお読みください）
- 送油経路に油漏れのないことを確認してください。

（2）給水及び水漏れの確認
- 給水元栓を開いてください。
- 給湯栓を開き、水の出ることを確認してください。
- 暖房用または融雪用として使用の場合、循環経路へ循環水を入れ、循環経路の空気抜きを行なってください。
- 配管経路からの水漏れのないことを確認してください。

（3）電源プラグ差し込みの確認
- 電源プラグがコンセントに確実に差し込まれていることを確認してください。

2．運　　転

（1）運転開始手順

・油タンクの送油バルブのつまみを全開にします。

・運転スイッチを押して運転を開始します。（詳しくは９ページをお読みください）

（2）初期運転時の異常現象

電磁ポンプ内に空気を吸い込むと運転時に異常音を発し、正常に燃料を噴霧しません。このとき、空気抜きをしないと、数回の点火操作を必要とする場合があります。（詳しくは７ページをお読みください）

また機器の設置条件などにより、燃焼空気が不適正の場合は、異常発煙や振動燃焼を生じることがあります。

（3）正常運転のめやす

上記の初期運転時の異常現象がなく、煙突から黒煙など出ていないことを確認してください。

3．消火の手順

運転スイッチを押して運転を停止します。

愛情点検

長年ご使用の油だき温水ボイラの点検を！

このような症状はありませんか
- ●水漏れがする
- ●油漏れがする
- ●煙が出たり、強い臭いがする
- ●運転中に異常な音や振動がする
- ●その他の異常や故障がある

→

このような症状の場合は使用を中止し、事故防止のため、運転スイッチを「切」にし、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。

便利メモ

型　式		設置日	年　月　日
販売店名	電話番号（　　）		

快適生活の新しい価値を創造する

長府工産株式会社

本　　社　〒752-0977　山口県下関市長府東侍町 1-5
TEL：083-245-5441㈹　FAX：083-245-9644

大阪支社　〒567-0031　大阪府茨木市春日 3-14-17
TEL：072-625-5338㈹　FAX：072-625-5742

東北支店　〒989-3127　宮城県仙台市青葉区愛子東 6-7-47
TEL：022-391-1215㈹　FAX：022-391-1565

横浜支店　〒226-0025　神奈川県横浜市緑区十日市場町 872-19-2F
TEL：045-989-5885㈹　FAX：045-989-5886

関東営業所　TEL：0285-22-6822　FAX：0285-22-6595
名古屋営業所　TEL：052-800-5553　FAX：052-800-5563
熊本営業所　TEL：096-386-2370　FAX：096-386-2371
宮崎営業所　TEL：0985-50-7624　FAX：0985-50-7869
鹿児島営業所　TEL：099-260-2052　FAX：099-266-2410
沖縄営業所　TEL：098-874-2397　FAX：098-874-2819